

2018年6月8日
株式会社東陽テクニカ

～時刻同期ソリューションビジネスを強化～

**ADVA Optical Networking 社と販売代理店契約を締結、
Oscilloquartz の取り扱い開始**

光励起セシウム発振器「OSA3300」発売

株式会社東陽テクニカ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：五味 勝）は、時刻同期関連製品として、仏・Orolia SA グループ配下の Spectracom Corp.のタイムサーバ「SecureSync」や米・Spirent Communications pls の高精度時刻同期 PTP 負荷装置「Spirent TestCenter」を提供してまいりました。

この度、最先端の時刻同期技術を持つ老舗クロック專業ベンダーであるスイス・Oscilloquartz SA^{※1}（以下 Oscilloquartz）を傘下に収める ADVA Optical Networking SE（本社：ドイツ・ミュンヘン、以下 ADVA Optical）と、日本における販売代理店契約を締結いたしました。Oscilloquartz 製品の取り扱いを開始することで、ラインアップを強化し、時刻同期ソリューションビジネスをさらに加速させてまいります。

第一弾として、オシレータ内蔵機器の一次標準原器である、光励起セシウム発振器「OSA3300」を2018年9月より販売いたします。



光励起セシウム発振器「OSA3300」

【時刻同期マーケット】

時刻同期とは個々の機器が持つ絶対あるいは相対時間を同期させることであり、我々の生活や国家の安全に欠かせない技術です。特に、リアルタイム性を重視する電力や交通などの社会インフラストラクチャーや移動を伴う携帯電話、制御系、防災、軍事防衛、そして昨今話題の自動運転と幅広い分野で、その絶対的基準と精度が不可欠な技術として利用されています。

この生活・産業活動に不可欠な時刻同期の中でも、特に軍事、金融、放送・通信の分野で、東陽テクニカは長年にわたり安定した校正および検査技術の提供を通じ、時刻同期技術の発展を支えてきました。

現在、軍事分野では、GPS を用いた時刻同期はジャミング^{※2} などによって引き起こされるセキュリティ脆弱性のために、よりセキュアな技術が要求されています。金融分野においては、昨今増加し続ける高速電子取引において、より精度の高い安定したタイムスタンプが必須とされています。ヨーロッパでは 2018 年 1 月より MiFID II ^{※3} が施行され、全ての金融取引においてさらに高度な時刻同期の実現が義務付けられました。また、モバイル通信分野では 5G の商用開始に向け、時刻が一時たりともズレず通信が途切れないう、基地局と端末間の時刻精度の安定した運用の検討が始まっています。

今回の ADVA Optical との契約締結によってクロック事業の老舗である Oscilloquartz 製品の取り扱いを開始することで、これら 3 分野のラインアップを強化し、品質担保からセキュリティ対策までトータルに製品・ソリューションを提供してまいります。

【 光励起セシウム発振器^{※4}「OSA3300」 】

9 月より販売を開始する Oscilloquartz の光励起セシウム発振器「OSA3300」は、オシレータ内蔵機器の校正器として一次標準原器です。また、ITU-T^{※5} G.8272.1 ePRTC^{※6} において、マスタークロックが外れた場合でも最大 14 日間 (Class A)、高精度の時刻同期を保持できる製品です。さらに、現在検討段階にある Class B (最大 80 日間) についても策定され次第対応予定です。

◆特長

- ・従来のセシウム標準器以上の高確度周波数出力
- ・10 年間高確度を維持
- ・運用ネットワークに必須の電源冗長構成
- ・確実なタイミング同期保持、GPS 信号のバックアップ運用に最適

【 製品データ 】

- ・製品名：光励起セシウム発振器「OSA3300」
- ・販売開始日：2018 年 9 月

※1 クロック専業ベンダー。通信、防衛、衛星、政府、研究機関向けセシウムから同期配信製品までを提供。1949 年創業以来、長期にわたり世界的なビジネスを展開。

※2 妨害電波。今回は GPS に対する妨害電波を指す。

※3 2018 年 1 月より欧州で施行された金融システムに関する法律。顧客の購入情報や購入履歴、購入時間を精密に保存することでトラブルを回避することが目的。

※4 従来はセシウムに磁場をかけ、極めて高精度な励起状態から国際的な 1 秒の定義をつくりだす技術の一つ。本メーカーは同技術に加え、更に高精度な光励起セシウムチューブ技術を今後提供する予定。

※5 ITU-T(International Telecommunication Union Telecommunication Standardization Sector)、国際電気通信連合の部門の一つ。

※6 ITU-T で推奨されている G.8272.1 規格に基づく Enhanced Primary Reference Time Clock。

<ADVA Optical Networking SE について>

1994年、ドイツ・マイニンゲンに創業。1995年にIBM ESCON 伝送装置を開発、企業ユーザーを中心に光伝送装置を販売。1997年にはCOLT社に選定され通信事業者との取引を開始。以降、欧州・北米を中心に、通信事業者、企業、公共機関など広範囲にわたりメトロ・データセンター向け光伝送ソリューション「FSP3000」を展開。2014年にはスイスに本社を置く Oscilloquartz 社を買収し、時刻同期ソリューションの開発体制を強化。セシウム発振器からシャーシ型、GNSS 一体型、プラグ型まで幅広いポートフォリオにて時刻同期製品を提供。

ADVA Optical 社 Web サイト : <https://www.advaoptical.com/en>

<株式会社東陽テクニカについて>

東陽テクニカは1953年の創立以来、世界最高水準の“はかる”技術の提供をコアコンピタンスとし、最先端の測定機器の輸入販売と自社開発製品の提供によって、官公庁、大学ならびに企業の研究開発を支援してきました。技術分野は、情報通信、自動車計測技術、環境エネルギー、EMC（電磁波障害）試験、海洋調査、ソフトウェア開発支援、メディカルなど幅広く、米国や中国の現地法人などを通じて世界にも提供しています。

また、2016～2017年にかけて新しい3組織「セキュリティ&ラボカンパニー」「技術研究所」「ワン・テクノロジー・カンパニー」を設立。サイバーセキュリティサービスの提供、自動運転車の開発支援、AI（人工知能）を使ったデータ解析など、新しいソリューションの創造に取り組んでいます。

東陽テクニカは「“はかる”技術で未来を創る」のスローガンのもと、これからも産業界の発展と安全で環境にやさしい社会づくりに貢献してまいります。

株式会社東陽テクニカ Web サイト : <https://www.toyo.co.jp/>

★ 本件に関するお問い合わせ先 ★

株式会社東陽テクニカ 情報通信システムソリューション部

TEL : 03-3245-1250（直通） E-mail : ict_contact@toyo.co.jp

光励起セシウム発振器「OSA3300」紹介ページ :

https://www.toyo.co.jp/ict/products/detail/ADVA_OSA3300.html

※本ニュースリリースに記載されている内容は、発表日現在の情報です。製品情報、サービス内容、お問い合わせ先など、予告なく変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

※記載されている会社名および製品名などは、各社の商標または登録商標です。